（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	居場所型発達サポートRYMZ			
○保護者評価実施期間	令和７年　４月　１日		～	令和８年　３月　３１日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22	（回答者数）	11
○従業者評価実施期間	令和７年　４月　１日		～	令和８年　３月　３１日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和８年　３月　３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・地域交流や地域資源を活かした療育が期待と評価されている。	・地域住民や地域関係機関や他児童通所支援事業所、こども園などの交流を多めに取り入れている。	・具体的な地域移行支援の具体例（実績）を作り、成果として評価されるよう、支援内容の適宜見直しや関係機関との連携を行う。
2	・独自の取り組み『個別セッション』を設けることで児童一人ひとりの個別支援計画に合わせた療育にフォーカスし療育の提供が行うことが出来る。	・児童が地域移行に必要な能力を個別支援計画に落とし込み、支援を行っている。	・事業所単位ではなく、地域で児童へ療育を提供する風土を形成できるよう、まちづくり協議会などの共同体への参加を行う。
3	・家庭や児童の心身に寄り添う支援を意識的に行っており、保護者や児童が居場所として活用できる用、声掛けの仕方や環境設定の配慮を行っている。	・家庭や学校でできない体験を提供している。	・高学年の児童が多く、より社会に出た時のイメージがしやすいロールプレイや体験の機会を増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・営業時間が平日だと午後からの為職員間のコミュニケーションがコンパクトであることが求められ、当日のカリキュラムなどの確認や下準備に工夫を要する。	・職員の出勤時間から児童の来所までの時間にゆとりが無い為。	・職員間でBAND（チャットアプリ）を活用し適宜情報の共有と普段から申し送りが無意識にできるような関係作りを行っている。
2	・建物が狭い。	・声なども反響してしまい、児童によっては居心地が悪くなる懸念がある。	・環境の整備及び、利用者への利用前の通知（建物広さや不快になっている構造はないか）を行う。 ・地域資源を活用し、建物だけではなく地域で療育を展開する。
3	・デジタルコンテンツ（IT）などを用いた療育支援や専門職の配置がない為、突出した強みを利用者が実感しずらい。	・児童の声や評価されている部分が見えにくい。	・本来持っている強み（個別セッションや金銭教育、体験活動や就労に向けた取り組みなど）をSNSやホームページで周知する。 また保護者にもわかりやすい形で小まめに報告を行う。